

インテリム アジアンスタディ対応へ台湾にオフィス

CROのインテリム(大阪市)はこのほど、国内CRO企業としては初めて、台湾の台北市に進出、5月中にオフィスをオープンした。今後、国内製薬企業、医療機器企業の台湾での臨床開発サポートを本格化させる。年内には韓国にも進出を予定。日本、韓国、台湾を軸にしたアジアンスタディがメインオーダーとなる状況に、日本系CROとしての独自戦略型ビジネス体制を整えていく。

台北市に立ち上げた現地企業は、「日商醫天賦生技顧問股份有限公司」。インテリムの浮田哲州社長は、「CROビジネス全般について事業を進めるが、基本的にはモニタリング業務だけでなく、薬物血中濃度の測定なども含めてのビジネスを提供する予定」とし、窓口を一本化することで日本語でのサービスが可能になるため、アジアにおける国内企業の臨床開発体制づくりに寄与する目的を強調した。

国内製薬企業のアジア地域での臨床開発は、グローバル系のCRO、現地ローカルCROを委託先にすることが多いのが現状。最大のネックは言葉の障壁で、コミュニケーションギャップの存在が大きかった。浮田氏は、「国内発のCROで、日本語で業務の一元管理を行える体制へのニーズは大きかった」といい、国内製薬企業のアジア臨床開発の事業拡大、開発のスピードアップ、開発選択肢の拡大のニーズに応えていけるようになるとしている。

一方で、CROとして品質確保、コストパフォーマンス、迅速性の面からも委託側ニーズに応える必要もあり、実務上の英語力の確保、効率的な治験施設確保など、グローバル型のCRO能力の確保にも取り組む。特にアジアンスタディのメインストリームとなりそうなオンコロジー分野で、存在感を発揮していく方針。台北市での具体的なビジネス展開計画は、近く構築する。